

第80回 開放型病床カンファレンス 医療関係者向

日時：6月11日(水) 20:00～
 場所：松波総合病院 3階講堂
 講師：公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構
 倉敷中央病院 呼吸器内科
 主任部長 石田 直 先生

テーマ：『高齢者の肺炎にどう対応するか』
 我が国における死亡順位の第3位となっている肺炎。その95%以上は60歳以上の高齢者の死亡です。また、高齢者肺炎の中でも特に多いのが、在宅で介護を受けている高齢者の肺炎です。高齢者の肺炎は非典型的な症状を示すことが多く、注意を要します。高齢者肺炎を予防するには、一般的な感染予防策(手洗い、咳嗽、咳エチケット)や誤嚥予防に加えて、インフルエンザワクチンおよび肺炎球菌ワクチンの接種が推奨されます。

かかりつけ医院のご紹介

岐阜市柳津町の たじりか医院



内科 小児科
 外科 胃腸科
 皮膚科 リハビリテーション科
 休診日 木・日曜日、祝日
 〒501-6103
 岐阜県岐阜市柳津町
 蓮池2-24
 ☎ 058-387-6367
 FAX 058-387-7325

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前8:30～12:00	○	○	○	—	○	○	—
午後4:00～ 6:30	○	○	○	—	○	○	—

—:休診



院長：田尻下 孝夫

当医院は生後1ヶ月のお子さんから、90歳以上の方まで通院されております。尿沈渣の顕鏡、白癬菌の顕鏡、抹消血液一般、CRP、血糖値、HbA1c、プロトロンビン値、頸部および腹部超音波検査、上部消化管内視鏡検査、24時間心電図検査などは自院で行っており、必要に応じて病院に紹介させて頂いております。

岐阜市東中島の 岐阜外科



外科 整形外科
 内科
 休診日 日曜日、祝日
 〒500-8235
 岐阜県岐阜市東中島
 1-17-8
 ☎ 058-248-6226
 FAX 058-248-0570

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前8:30～12:00	○	○	○	○	○	●	—
午後3:00～ 6:30	○	○	○	○	○	—	—

●は午前8:00～11:30 —:休診



院長：澤田 逸志

けがややけどの湿潤療法、肩こり・腰痛・膝痛・ふらつきなどに対する痛點注射(トリガーポイント注射)を行っています。

患者さまと
 病院をつなぐ
 かけはし
 No.176
 MATSUNAMI

まつなみ

2014
 6

発行 社会医療法人 藤西厚生会 松波総合病院

「NORTH WING」北館完成！ 記念式典&内覧会を華やかに開催。

いよいよ当院新館「NORTH WING」が完成し、去る5月18日(日)に記念式典と内覧会が行われました。当日は、国内外の医療関係者はもちろん政財界や地元関係者ら総勢356人に参加いただき盛大な式典となりました。まず初めに松波英寿理事長があいさつに立ち、「時代の先端をいく設備とチーム医療で地元の皆さまに最善の医療を捧げたい。」と決意が語られ、その後、岐阜大学学長 森脇久隆様、理事長の古くからのご友人でもある十六銀行頭取 村瀬幸雄様らからお祝いのお言葉を頂戴しました。最後に、各界代表の皆さまと一緒にテープカットをさせていただき、新館の内覧へのご案内いたしました。



本館と新館を結ぶ渡り廊下には、弦楽器を中心としたクラシック奏者の生演奏が流れ、見学者を新館へと誘いました。



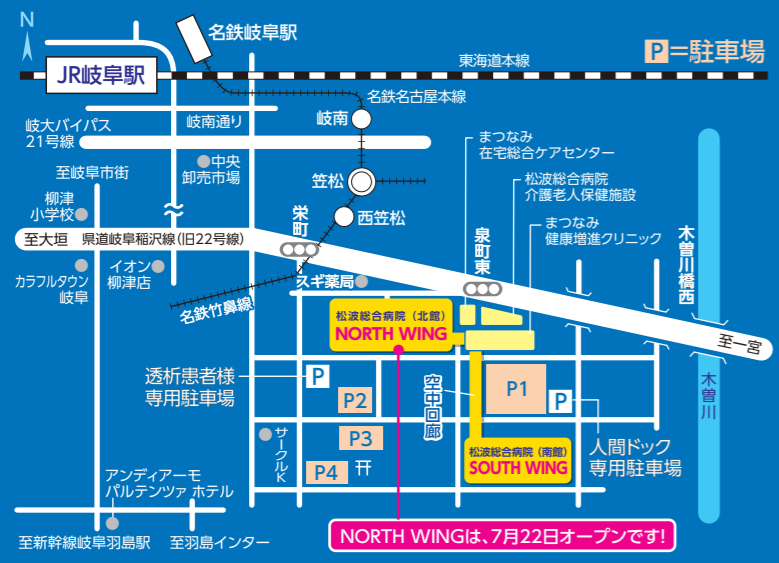
最新の医療機器が揃う検査室や手術室など、普段は立ち入れない施設も見学していただきました。(上段:ハイブリッド手術室)



7階建てのビルの屋上にはヘリポートを整備。内覧会ではヘリコプターによる訓練飛行も行われ、その機動力、スピードを再確認しました。



館内各所にいる奏者が同時に同じ曲を演奏するという珍しい奏法も披露されました。アンサンブルの妙が私たちの目指すチーム医療を連想させました。

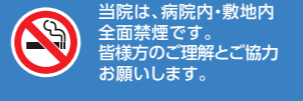


遠方よりお越しの方

- 新幹線岐阜羽島駅 → 西笠松駅 → 松波総合病院
名鉄電車竹鼻線25分 徒歩10分
タクシー-20分
- 名鉄岐阜駅 → 西笠松駅 → 松波総合病院
名鉄電車羽島行10分 徒歩10分
タクシー-15分
- 名鉄名古屋駅 → 笠松駅 → 松波総合病院
名鉄電車急行25分 徒歩15分
タクシー-5分

お気軽にお問い合わせください。
 ☎ 058-388-0111
 http://www.matsunami-hsp.or.jp/

社会医療法人 藤西厚生会
 松波総合病院 〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代185-1



当院は、病院内・敷地内全面禁煙です。皆様のご理解とご協力をお願いします。

NORTH WINGは、7月22日オープンです!

第13回 「濃尾医療連携セミナー」開催

2014年4月19日(土)、岐阜市内のホテルにて「濃尾医療連携セミナー」を開催しました。13回目となる今回は、まず始めに松波総合病院山北宜由病院長より「濃尾医療連携研究会のこの1年」と題しての話があり、続いて当院リハビリテーション科第二部長大角淳一医師が「リハビリテーション～急性期・回復期・生活期、そして地域連携～」と題した講演を行いました。医療や介護の施設をご自身でも経営されている武久洋三先生をお招きしての特別講演では、「地域包括システムにおけるこれからの医療と介護の連携」をテーマにお話をいただきました。地域包括ケアシステムの将来像や、これからの日本に望まれる病院機能と医療・介護の連携についての提言はいずれも示唆に富み、大変有意義な講演会となりました。



山北宜由病院長



講演会のあと、ゲストの武久先生をはじめご参加の先生方と懇親会も行いました。

講演要旨：地域包括ケアシステムにおけるこれからの医療と介護の連携



医療法人 平成博愛会 博愛記念病院 理事長 武久 洋三先生

※「地域包括ケアシステム」とは？
団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年を目途に、介護が必要になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」の5つのサービスを、一体的に受けられる支援体制のこと。

2025年には、亡くなる方は現在の1.5倍になります。一人の方が亡くなるまでに仮に2回入院した場合、入院患者数は3倍以上となり、ベッドを増やさないのであれば、入院期間を1/3に短縮せざるを得ません。これは急性期病院だけでなく、回復期や慢性期の病院や介護保険施設も同様です。この急性期後期を担うのが「地域包括ケア病棟」で、これには3つの機能が求められます。それは、急性期の治療を終えた患者を受け入れ、継続的治療やリハビリを行う「Post Acute」機能、高齢者施設や在宅療養中に具合が悪くなった軽・中程度の救急患者を受け入れる「Sub Acute」機能、受け入れた患者に積極的にリハビリを行い、自宅や施設に帰れる状態まで回復させる「在宅復帰」です。高齢者医療の将来像は、「ときどき入院、ほぼ在宅」。医療と介護が密接に連携し、高齢者が「急性期病院」「慢性期病院」「介護施設」「在宅」を行き来する循環型の連携システムを作り上げることが2025年問題を解決する鍵になります。

セミナー終了後、武久洋三先生と当院山北宜由病院長よりお話を伺いました。

武久洋三先生
皆さんにお伝えしたいのは、まずは健康に気をつけ、元気で長生きするように努めてほしいということ。残念ながら医療や介護が必要になった場合は、ふだんは24時間の訪問サービスなどで在宅での療養を支え、具合が悪くなったら病院に入院して治療し、良くなったらまた戻ってくる。これが私たちがめざす高齢者医療です。その点、松波総合病院は予防医療から在宅支援まで、一貫した流れをもって地域医療に取り組んでおられます。今後も地域の方々へ頼りにされる病院をめざして頑張っていたきたいと思います。

山北宜由病院長
今日は武久先生から素晴らしいお話をお聞きしました。中でも心に残ったのは「ときどき入院、ほぼ在宅」という言葉。こういう考え方がこれからはとても大切だと思いました。急性期、回復期、慢性期、在宅という流れの中で一番長いのは慢性期～在宅の期間。当院も、急性期医療に特化していくと同時に、急性期が終わったあとの医療も、病院の中で切れ目なく提供していくことが非常に重要であり、その流れをきちんと作って在宅の患者さんに繋げていかなければいけないということ、今日のお話の中で再認識しました。

小林医師の活動報告 フィリピンでの腹腔鏡手術の技術指導

中日新聞、岐阜新聞で報道されました通り、私は3月15日から1週間フィリピンのケソン市にありますがケソン市立総合病院の外科で実際に腹腔鏡下直腸切除や、胆嚢摘出術等を行い、さらに現地スタッフに技術指導を行って参りました。国際ロータリークラブの資金援助と名古屋市立大学消化器外科学教室教授竹山廣光氏の推薦で実現しました。私の持っている技術を伝えることが目的でしたが、逆に私がフィリピンで得られたことが二つあります。一つは現地の人は皆笑顔が絶えないということです。ロータリー活動の一環ですので貧民街にも赴きました。その子供たちの笑顔は忘れられません。もう一つは日本がいかにも無駄な医療を行っているかです。確かにフィリピンの多くの方はお金が払えず十分に良質な医療を受ける



技術指導の合間をぬって、街で子供たちに会いました。どの子もみんな笑顔です。

ことは難しいようですが、逆に日本人は医療にお金(税金)を使いすぎていると思えました。30年後の日本の人口比率から考えると、もっと真剣に考えないといけないことと実感しました。今後は機会を得て国際的な社会活動をしていこうと思っています。

松波総合病院 副院長・外科 専門分野:直腸癌に対する機能温存手術・腹腔鏡下大腸切除術、炎症性腸疾患の外科治療、大腸癌の抗癌化学治療 小林 建司



母が、看護師を目指していたこともあり、その意思を受け継ぎ看護師を目指しました。今後の目標は、摂食嚥下障害の認定看護師の資格を取ることです。日本で学んだことをいつか母国で生かしたいと思います。

看護師国家試験に合格 リナ・スリヤニンシさん(27)＝笠松町

2014年(平成26年) 5月3日 土曜日 誕生記念日

猛勉強し挑戦4回 結実

【この記事・写真等は朝日新聞社の許諾を得て転載しています】

新しく当院に赴任した認定看護師のご紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師 久保田 広美
当院では褥瘡(床ずれ)発生の危険性の高い患者さんに対して、皮膚・排泄ケア認定看護師が中心となり、医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士などの多職種でチームを構成し褥瘡対策に取り組んでいます。褥瘡以外にも排泄に関するお悩みがありましたらお気軽にご相談ください。

資格取得者のご紹介

マンモグラフィ認定資格 診療放射線技師 坂 美波
資格を取得したことにより、患者さんが安心して検査を施行していただけるように努めていきたいと思っています。

NSTコーディネーター 管理栄養士 丸藻 朋子
栄養管理を通して、治療に貢献できるよう栄養サポートチーム(NST)の一員として頑張ります。